

取組実績の概要（2 ページ以内）

【事業名】 杏林大学 「日英中トライリンガル育成のための高大接続」

【取組の概要】

本事業は「日英中トライリンガル育成のための高大接続」を目指すものである。現在、外国語学部が中心となって全学的に展開している「グローバル人材育成推進事業」（現「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」（GGJ）、文部科学省、平成 24 年度採択）の取り組みを高等学校へ積極的に開放することで、本学のグローバル人材育成が拠って立つ認識を高校生にも普及し、留学の早期化・長期化・複数化への意識を積極的に醸成しながら、グローバル人材になる志を持った若者の成長を促進していく。

【取組のポイント】

- ・日英中トライリンガルキャンプの開催
- ・アドバンスト・プレイスメントの実施
- ・主体性・多様性・協働性を評価するルーブリックの開発と AO グローバル入試
- ・英語キャンプ・中国語研修の高校生への開放
- ・ライティングセンターによる留学準備と高校生への開放
- ・高大接続ラウンドテーブルの定期開催、「高校と大学をつなぐ FD/SD」の開催

【取組の人材育成目標・課題】

- ・日英中トライリンガル人材の育成
- ・大学レベルの教育機会を活用しグローバルに活躍する人材育成
- ・主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度を評価

グローバル人材育成という共通の教育目標をもつ SGH 指定校やグローバル人材育成に積極的に取り組む高校との高大接続によって、日英中トライリンガルの必要性を高校生・日本社会に広く普及し、高大一体となって効率的に日英中トライリンガル人材を育成する。そのために、杏林大学の中国語の教育資源を活用し、中国語の必要性を広く高校生に普及するためピアサポーター（特に中国からの留学生）による教育機会を提供していく。また、高校生に開放する教育機会を大学の正規科目として扱い大学入学後卒業に必要な単位として認定するアドバンスト・プレイスメントの実施によって、高大接続の円滑化を推進する。

【具体的取組実績・成果】

- ・日英中トライリンガルキャンプの実施

本学学生と連携校の 1 年生・2 年生を中心に「日英中トライリンガルキャンプ」を毎年実施。ピアサポーター（英語圏留学経験者、中国からの留学生）との協働による英語と中国語によるプレゼンテーション等の主体的学修を行い、英語・中国語の外国語運用能力の重要性を認識するとともに、グローバル人材への成長を促す教育機会を提供してきた。

	H26 参加者数 (内:高校生数)	H27 参加者数 (内:高校生数)	H28 参加者数 (内:高校生数)	H29 参加者数 (内:高校生数)	H30 参加者数 (内:高校生数)
日英中トライリンガル キャンプ	39(17)	25(6)	34(21)	40(30)	40(29)

- ・「アドバンスト・プレイスメントの実施」

本学入学志望の高校生だけを対象にせず、制度本来の意義を踏まえ、修得した単位がより多くの大学で単位認定される、高校生にとってより有益な制度構築を図るという基本方針のもと、近隣大学・連携高校関係者と意見交換の場としてのラウンドテーブルを 3 回実施。その上で、「アドバンスト・プレイスメントに関する覚書」を 9 高校と締結。桜美林大学、共愛学園前橋国際大学、創価大学の 3 大学と「アドバンスト・プレイスメントによる大学間単位互換協定」を締結。平成 29 年度より制度運用を開始し、平成 30 年度には事業取組学部である外国語学部だけでなく、医学部、保健学部、総合政策学部の科目も含め、高校生が受講しやすい教養系の学期中科目 67 科目を高校生に開放。さらには、夏季集中科目も開講し、103 名の高校生に 123 単位を認定した。令和元年度は 106 名の高校生に 130 単位認定した。

	H27	H28	H29	H30	R1
アドバンスト・プレイスメントによる認定単位数	—	—	8	123	130
アドバンスト・プレイスメントによる単位認定人数	—	—	4	103	106

・学力の3要素「③主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度」を多面的評価するルーブリックを開発しA0入試で利用

本事業で開発したルーブリックは、自らの多面的能力（主体性、多様性、協働性、課題発見・解決力）を、高校時代を振り返り、力を入れた経験を4つの領域に照らし合わせ評価。さらに、言語運用能力（対話力・プレゼンテーション能力、聞く、書く、読む）も能力指標を基準にして1~5の5段階で自己評価。平成30年度から外国語学部A0入試第Ⅱ期（グローバル型）で書類選考資料として提出を義務付ける形で使用。試験日には、ルーブリックで自己評価した経験をプレゼンテーションする表現力を評価。言語能力で知識・技能、小論文・プレゼンテーションで思考力・判断力・表現力、ルーブリックで主体性・多様性・協働性の学力の3要素を評価する入試を実施。



【補助期間終了後の展開】

本事業は、グローバル人材育成に積極的に取り組んでいる高等学校との高大連携・高大接続を主眼として、より効率的かつ効果的にグローバル人材育成を加速させることを目的としてきた。母語である日本語に加え、英語・中国語を操るトライリンガルになることが、中国・米国という二大国に伍する日本社会の未来を築くため、そして、地球上のより多くの人とコミュニケーションをとり世界の発展に寄与するためにいかに有益であるかという、本学のグローバル人材育成が掲げて立つ認識を高校生にも普及し、グローバル人材になる志を持った若者の成長を促進してきた。採択後毎年、日英中トライリンガルキャンプという宿泊型学修機会を提供し、留学経験者や海外からの留学生を中心とする杏林大学外国語学部の学生と国際志向の強い高校生とが、学年や学校の枠を超えて交流し、英語・中国語・日本語の重要性を実体験する機会となっている。また、ライティングセンターの運営により留学の促進も図っている。補助期間終了後もこうしたグローバル人材を育む取組は継続実施していく。

また、アドバンスト・プレイスメントによる単位認定を行うことによって、志の高い高校生に大学レベルの教育機会を積極的に提供してきた。学期中の受講は、高校のカリキュラムが柔軟でないために難しいことがわかってきたが、夏季・春季休業中の集中科目であれば受講が可能である。今後も集中科目として積極的に学修機会を提供していく。本制度を高校生に広く普及するためには、大学間連携が必要である。現在、3大学と単位互換協定を締結したが、今後も継続的に協定締結校を増やし、高校生にとってより魅力的な制度に改善していく。

学力の3要素のうち特に主体性・多様性・協働性を多面的評価するルーブリックを本事業で開発できた。平成30年度、令和元年度、令和2年度外国語学部A0入試で利用したが、今後も多面的評価を行う入試改革を全学的に実施していく。

【必須指標の達成度】

テーマにおける必須指標	平成26年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
高校関係者との意見交換の実施数 【回数】	17	40	55
高校生を対象とした大学レベルの教育機会の提供数 【回数】	0	15	70
高校生を対象とした大学レベルの教育機会の提供数 【人数】	0	50	220
高校生を対象とした大学レベルの教育機会を経た学生の単位認定数 【単位認定数】	0	100	224
高校生を対象とした大学レベルの教育機会を経た学生の単位認定数 【単位認定人数】	0	50	199

(テーマ：Ⅲ (高大接続)、大学等名：杏林大学)